

Trait d'union

トレデュニオン

VOL. **52**
2016-8



- 海外展から読む 2016～17 秋冬シューズトレンド 2-5
- SFC 西日本支部 補習講座
子どもたちの足と靴を考える 6-10
- JFW-IFF INTERNATIONAL FASHION FAIR 参加報告 11
- SFC 東日本支部 補習講座
義肢装具士から見たシューフィッティング 12-16
- シューフィッター養成講座シニア専門コース紹介 17
- 第19回定時総会概要報告 18
- 平成28年度アクションプラン 19
- 事務局便り



一般社団法人 **足と靴と健康協議会**
FOOT, FOOTWEAR AND HEALTH ASSOCIATION

継続するトレンド。 その進化と充実化に期待

(株) ジャルフィック チーフエディター 岡村 嘉子

16～17年秋冬に向けた世界最大のシューズの見本市であるミカムが、2月14日～17日にイタリアのミラノにて開催されました。

ビジターは32,703名。前年同期展と比較して、約1.8%の微増と報告されています。また、久しぶりにロシアからの訪問が13%増加し、これが驚くべき明るいニュースとなりました。しかし一方で、日本人のバイヤーはますます絞り込まれているように感じられます。パリやニューヨークといった他都市の見本市との関係性においては、必ずしも同展に優位性があるとは言えないようです。特に洋服を中心としたセレクトショップのバイヤーに、このことは顕著です。

今シーズンのコレクションからは、鎮静化したはずのスニーカートレンドが根強く残っていることが窺えます。

スポーティーの流れを経て浮上するクラシックやトラディショナル

スポーツマインドとベーシック回帰という志向性がリンクし、クラシックやトラディショナルな印象のデザインが多く登場しています。特にそこから感じられるのは70～80年代の雰囲気です。またこの流れの中で、過去に実績のあったモデルを復刻しようとする動きが見られます。これは従来の顧客の呼び戻し、あるいはブランドを代表するアイコン的なデザインによる若い年齢層へのアピールが期待されます。また、前シーズン見られたフォークロアの流れは、引き続き拡大化し、今シーズンのトレンドのひとつとなっています。

一方で、先の春夏でひと段落したかと思えたスニーカーが依然として強さをを見せているのも特筆されます。成熟した市場の中では新規性が生まれにくいこと、経済の沈滞ムードの中で保守的な志向性が蔓延していることによって、新しいファッションへの投資は起こりにくくなっているのが実情です。これは提案側にとっても同様の問題となり、実績のあるアイテムを拡充する傾向は強まりを見せ、その結果多くのコレ

クションの中にスニーカーが並びます。中には新たなブランドも登場していますが、コンセプトやスタイルに新しい提案性を感じさせるものは少ないようです。スニーカーは普遍化の極みを迎えていると行うことができるでしょう。また、革靴とスニーカーを結ぶアイテムの開発も本格化し、上質で完成度の高い提案も多く見られるようになりました。

さて、そろそろ復活するのではないかと囁かれていたのがロングブーツです。しかし、ファッションの変化との整合性が弱いこと、あるいは気候の不安定さなど、市場に魅力的なアイテムとして認知されるための要素には乏しいのが現実です。バイヤーやメーカーにとっては依然としてリスクが高いのか、意欲的な取り組みが見られません。その代わりに、存在感を印象付けたのがブーツィや、トロンケットと呼ばれるショートブーツ。シンプルなサイドゴアからジョドパー、さらにウエスタン調なども浮上し、バラエティに富んだ充実した展開が見られました。

FORM & ITEM

豊富な選択肢をもつスニーカーとショートブーツ

大きな変化が乏しい中で注目されるのは、スニーカーの継続とバラエティ豊かなショートブーツです。

前者では、上質な素材による洗練されたシンプルなデザインや、素材やカラーリングをブランドそれぞれのオリジナリティで表現した個性的なデザインが多く見られます。そして、こうしたスニーカーの中で際立つのは、ソールの仕様に革靴のテクニクを活かした、従来のスポーツイメージとは異なるアイテムです。また革靴の方からスニーカーの持つスポーティーなマインドやカジュアル感にアプローチしたものも見受けられ、相互の影響による、さまざまなデザインの登場が今後も気になるところです。

後者には、ジョドパーやトロンケット、深めのレースアップなど、さまざまなデザインが登場しています。それらは、70年代から80年代を彷彿とさせる、丸みとボリューム感のあるシルエットが主流です。また、ヒールは安定感のある太目のストレート、あるいは接地面に向かって広がったチャンキータイプが注目されます。

特にバイヤーからの評価が高かったのは、ショートブーツに空きをデザインした軽いイメージのもの。デザインの新鮮さはもちろん、気候に関係なく市場に受け入れられるアイテムであることがポイントとなったようです。



エレガントなジョドパー。
空きをデザインしたモダンなデザイン



マルチカラーで構成された複雑なメッシュで仕立てたスニーカー。
ソールのカラーともマッチ



久しぶりに登場したショート丈のウエスタンブーツ。
金具で洗練された雰囲気



スニーカー的な一点。スポーティーなネオプレーンに
トラディショナルなキルティタンが効果的

MATERIAL & COLOR

革本来の魅力を活かす。ブラウン系のカラーが充実

革本来の魅力に立ち戻ろうとする方向性が本流となり、革の上品なナチュラル感やしなやかなタッチがクローズアップされ、新鮮な印象を与えています。特に起毛素材がショートブーツからパンプス、スニーカー、カジュアルシューズにまで多用され、繊細な雰囲気づくりに貢献しています。

また、クラシックやトラディショナルなイメージには、どこかノスタルジックな雰囲気が漂うシャープな艶感のガラス系レザーが際立ちます。さらにツイードやフェルトといったウールのファブリックも効果的。特に後者はフォークロアイメージを表現する素材としても登場します。またカジュアルなアイテム

にモダンさを与えるのは、プリントを施したヘアードカウやラビットなどのファー。さらにスポーティーなネオプレーンも引き続き重要なアクセント素材となっています。

カラーは、革らしさを代表するブラウン系が新たな定番として勢いを見せます。アクセントカラーとしては、クラシックムードの表現には味わい深いボルドーやグリーンが、その他にはフューシャピンクやオレンジといったスパイシーなカラーが魅力的です。また、モード系のコレクションでひととき印象的なカラーとして浮上したのが、マロングラッセやピンクベージュといった微妙なニュートラルカラーです。



上質なカーフで仕立てたイタリアントラディショナルな一点。
カラーリングも絶妙



スニーカーならではの未来的なアッパー素材は
クラッキング風のエナメル



ダークブラウンとフューシャピンクをスエードでコンビネーション。
秋冬らしい濃密なカラーが魅力的



ローデングロスで仕立てたショートブーツ。
ブランケットステッチも相まってフォークロアなイメージ

DETAIL & ORNAMENTATION

新鮮なカラーコンビネーション、金具のアイコンカに期待

今シーズンもカラーコンビネーションによるシンプルな装飾感が重要です。特にブラウン系が入った配色は、イタリア独特のモダンさを感じさせ、新鮮かつ魅力的な提案となっています。

デザインディテールとして注目を集めたのはモンクベルトやキルティタン。これらがスポーティーなアイテムに用いられることで新しいイメージを描き出しています。また、凝った仕様のソールが多く提案されているのも特徴的です。例えば異素材を組み合わせたリ、押し縁を入れたり。ソールがデザインの一部として全体の雰囲気づくりに重要な役割を果たしています。

オーナメントとしては、ブランド名を入れた

金具やスタッズ風の金具がブランドのアイコンとして登場しています。ブランドを認知させるためのアイコンづくりは重要なマーケティング手法であり、ここで金具は効果的に機能します。

その他の装飾としては、ジップ使いが目立ちます。例えばショートブーツやスニーカーの中央部もしくは両サイドに、着脱のための機能兼装飾として施されることでシャープな印象を与えています。また、クラフト感覚のパッチワークはカラーコンビネーションへの注目もあり、さまざまな提案が行われます。そしてフリンジも継続して注目です。



イタリア的なカラーセンスでまとめられたパッチワーク。
エラスティック×スエード×エナメル



アイコンカのあるジップと引き手のメタルアクセサリがポイント



キルティタンをモディファイしたディテールがユニーク。
エアソールとメタリックカラーでモダンに



エレガントなショートブーツを大胆なフリンジで飾る



岡村 嘉子 (おかむら よしこ)

大学卒業後、ジャルフィックに入社。
新業態研究誌「Zerohour」の編集に携わり、衣・食・住・遊にわたるさまざまな新コンセプトショップの取材・執筆を経験する。現在はシューズ&バッグに関する機関誌「JALFIC」の企画・編集及び、トレンドセミナーや海外見本市レポートセミナーなどで講演を行なう。流行色情報センター (JAFCA) が発行する「流行色」にもシューズ&バッグトレンドについて執筆中。



SFC 西日本支部 補習講座

子どもたちの足と靴を考える

2016年2月4日、大阪のCIVI北梅田研修センターに吉村眞由美先生をお招きして「子どもたちの足と靴を考える～靴の正しい使い方（測・選・使）教育の現場から～」と題した講演会が開催されました。シューフィッターはもちろん、親御さんにもぜひ聞いていただきたい目から鱗の内容です。講演の一部をご紹介します。

報告者 SFC 西日本支部副支部長 花本 義文

講師 吉村 眞由美（早稲田大学 人間総合研究センター 研究員 学術博士）

今日は子どもたちが家庭・保育所・幼稚園でどんな状況にあってどこが問題か？ということを保護者講演スライドを使ってお伝えしたいと思います。どんな風に啓発しているのかを見ていただきながら、保護者や先生が分かっていることを感じ取っていただければと思います。

日本には靴の教育制度が無い

まず保護者の方に「皆さん、学校で靴のことを習ったことありますか？」「自分の足のサイズをご存知ですか？」というところから話していきます。

それで、まず「習ったことない」となります。

残念ながら、日本には靴の教育制度がありません。学習指導要領にもありませんし、保育所保育指針にも衣服の着脱は載っているのに靴は

日本には靴の教育制度がありません

大人が知識不足なのが現状



しわ寄せは子どもの健康や安全に



ママもパパも靴のこと
習ったことがないのね

全く触れられていません。

『どこでも習わない』これが現状です。小学校の家庭科で洋服のことは習うのに靴のことは出てきません。日本が立ち遅れており、「大人の知識が不足している」ということを納得していただきます。

ドイツ ベルリンでの 靴選び風景 まず最初に足の測定



ドイツでの靴選び

ドイツ・ベルリンの靴売場視察の例をご紹介します。ドイツはファッション靴よりも健康・整形靴が進んでいます。日本の子どもの靴選びは、まず子どもがワクワクして商品棚のところに行き、どれにしようかなとなります。親御さんは後からついてきて「どれがいいの？」と子どもに靴を選ばせています。

ドイツではまず、足のサイズを測ります。店員も子ども靴専門の方でサイズが合わない物を履かないことへの意識がしっかりしています。計測器具でも男の子・女の子で足幅が別表記されており、非常に勉強になりました。

サイズを確認して靴を選ぼうという段階になると、この子は遊びに行ってしまう。店内にすべり台やブランコなどの遊具がたくさんあり、大人が靴をじっくり選ぶ間に子どもが飽きない工夫がされていました。ここで言いたいのは子どもが靴選びに参加してないということです。

これが一番の衝撃でした。

ここで保護者の方に知らせているのは「経験と知識がある大人が選んでいた」という事実です。「生まれてから靴を履いた経験が少ない、靴での成功・失敗もよく分からない子どもになぜ靴を選ばせてしまうのか疑問に思ったことはありませんか？」と話します。日本の子ども靴は、カラフルでキャラクターがいっぱい付いた、子どもが喜ぶ製品作りというのが代々されてきている。子ども靴選びで、子どもが主導権を持っていることに問題があるのでは？

靴の履き方で踵を踏んで潰さないことには意識が強いが、爪先をトントンしたり手を使わずに履くことがダメなことにはまだ意識が薄い。

ドイツの小学校でも1日に何足か上履きと外靴を履き替えます。教室の廊下にはベンチが作りつけられていて、座るだけでなく手荷物を置いて手を使って靴を履くことができます。1人の子の荷物が帽子から靴まで縦に収納できるスタイルです。日本では数名の靴を縦に収納する下駄箱スタイルなので、みんなが同時に座って靴を履けません。

日本の子ども靴 カラフルでキャラクターがいっぱい



ドイツの子ども靴 革製で無地・機能性に特化した造り



ドイツの子ども靴 キャラクターはない
子ども靴選び 経験と知識のある大人が選ぶ

日本人の靴に対する考え方

日本人の靴に対する概念モデルを図式化しました。20～80代の方に良い靴の条件をアンケートしたところ、60代以上で多かった回答は、靴の幅が広くゆったりしている・軽い・手を使わずに簡単に脱ぎ履きできることでした。これは草履や下駄の条件と重なっています。

色々な資料を見ると一般市民が靴を履くようになったのは1945年以降といわれています。西洋から靴は入ってきたが、選び方・履き方の文化は入ってきていない。

それで草履・下駄風の選び方・履き方が代々伝わって今に至っていると考えています。爪先トントンというのは、手を使わずに足趾の股に鼻緒を入れる下駄や草履の履き方ですね。靴

は踵合わせの履物で、爪先合わせではないのです。ここでミスマッチが起きて子どもたちの足が不安定になったり、爪・趾先に問題が起きたりしてしまいます。そんな話をすると保護者の方もハッとしたり、先生方も「言われたら納得するが気がつかなかった」となります。



日本人の靴サイズに対する認識

靴サイズの認識ということでは、日本には最近まで足を計測する文化がありませんでした。シューフィッターがいるお店に靴を買いに来る意識のある方、靴にしっかりお金をかけようという方ばかりにはなっていないのが現状だと思います。

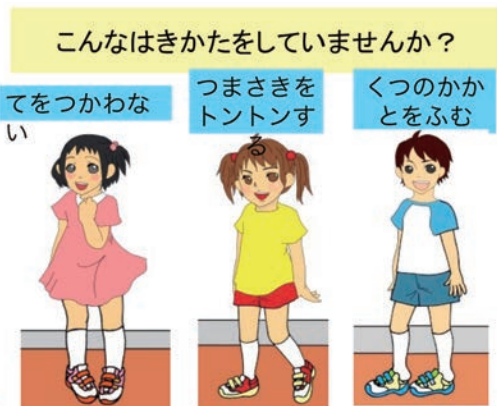
「靴を買うとき、試し履きで自分のサイズを認識していませんか？」というお話もよくします。

「足のサイズはいくつですか？どうやって知りましたか？」というのと、履いている靴のサイズ表示を見て「私は、何cmです」というのが一般的です。

「でも、同じサイズのコーナーで3足履いたら全部フィット感が違いますか？」とお話すると、「そう言われたら…」と。

だから入れ物で足の大きさを推測するのではなく、ちゃんと中身の足のサイズを測らないといけないですよ。そこで日本の靴・衣服の表示は体のサイズなのだと話します。身体サイズなので、足を測らないことには足に合った靴は選べません。

子育ての中で間違った履き方を教えてしまったり、また私の学生たちのレポートの中に、先生たちが爪先トントンで履きなさいと教えていたり、座ってしっかり履こうとしている子に早く履きなさい、立って履きなさいと言ったり、小学校の先生から立って履かせるようにして小学校に送ってくださいと言われて無理矢理立た



せて雑に履かせるような指導をしているのを見たという声もありました。そのあたりが小学生以上のいろいろな問題を解決していくポイントになると思います。

あと中敷きが外せるタイプがいいですよと伝えます。衛生面でも、サイズの確認でも有効で、時々外して踵を合わせて上に乗ってもらい、爪先の余裕がどれくらいあるかチェックしてあげてくださいと話をします。そこまでは見ていなかったという方がほとんどです。

それと履き方。ヒモやベルトの固定が不足しています。ちゃんと留めない不安定になり脱げやすくなって、足の痛みや疲れの原因となったり靴が脱げて怪我をしてしまったり。交通事故現場に靴がいっぱい落ちているのが日本なんです。



保育所看護師の話ですが、避難訓練で靴がとんでも脱げるそうです。700メートル離れた公園まで移動する間に7～8人は脱げ、その度に全体が止まってしまうヒヤリとする。サイズが大きいのと履き方が原因。しっかり履けていない。

保育士でもしっかり留めないといけないという知識がない方が履かせてしまうと、脱げてしまうことがあるのです。子どもの足の骨格の基

礎が出来上がるのが7～8歳（諸説あり）。それまでにアーチがしっかり育っていると、その後も順調に育っていきまると言くと、みなさんやる気が出ます。

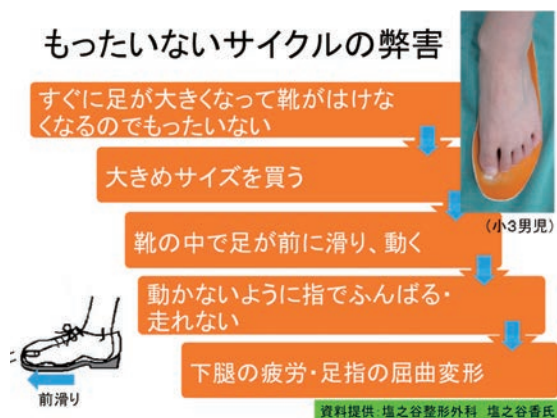
測る・選ぶ・使うがしっかりしていれば、健康で活動に適した足に成長してくれると考えています。

どうしたら正しい靴行動ができるのか？教育が解決のカギを握っています。ということでシューエデュケーション（靴の正しい使い方教育）の話ということになります。

もったいないサイクルの弊害

最近の研究で子どもの足の年間成長量は約1cm（個人差・年齢差あり）。靴の耐久期間・どれくらい長持ちするか？メーカーによっては3カ月というところもある。買う時期の調査をしたところ新学期が最も多かったです。

大きめの靴だと中で足の動きも大きくなる。そうすると靴のゆがみも大きくなるので、長持ちさせようと思った靴が早く壊れてしまいます。1cm大きめを選んでも、靴は1年持たずに壊れる。次に買う靴はそれより大きいものになる（同じ大きさの靴は選ばない）ので、常に大きいものを履かされ続けることになる。



良い足の感覚を育てたくても、ルーズな状態に慣れてしまうため、非常に不安定で歩きにくい、ゆるめのフィット感を好むようになります。すると常に大きな靴を買って「足が痛い・足が疲れる・靴が合わない」という大人になる可能性が高いと話します。それは子どもの将来に負担をかけてしまうのでフィット感をしっかり教える。7～8歳までが特に大事なのです。

おすすめは5mm大きめの靴。半年履けるものをこまめにサイズアップしていくのが理想です。ベルトがあるものを。1.5cm以上大きな靴は足になじまない・大きく歪みながら履いてしまうので、型崩れしやすくなります。そのためか適正な靴より早く壊れてしまうのです。

せっかく長持ちすると思っていたのに逆にもったいない。欲張ることが結局お子さまの足を疲れさせてしまい、トラブルの原因になる可能性もあり靴も早く壊れると知らせています。

成長の適正なゆとり量を知りましょうとお伝えします。そうすると、むやみに大きめを買う・大き過ぎるおさがりを早まって履かせてしまうということも防げます。

うっかり見過ごしの弊害

小さくなってしまった靴の話をしてします。靴がきつくなっているのに気が付かない。すると趾先が靴先に押し込められて前足部の変形・外反母趾・爪の痛みなどが起こることがあります。大き過ぎよりも小さ過ぎの方が、ダメージはひどくなります。



なぜ、きつくなっているのに気が付かないのか？保護者の方に尋ねると、「きついならきついと子ども本人が申し出るとしていました」

日本の子ども靴はソフトな物が多いために小さくなくても圧迫感が伝わりにくいのです。それと足は毎日徐々に大きくなりきつくなるので、毎日履いている子ども自身が気付くのはまず無理です。保護者がしっかり見てほしいです。

選び方指導の目安

甲をテープで留められる事が大切です。折り返し2本ベルトは時間がかかるとか、開くのが大変だと思われがちですが、靴教育をして練習すれば上手に履けるようになります。

乳幼児期から小学生までが、靴教育のゴールデンタイムです。この時期に足の環境を正しく整えます。サイズを合わせて正しく履くことです。

しっかりした機能性のあるものを選ぶことです。

あと運動ですよ。足や全身を使った運動です。「いい靴でいっぱい遊ぼう・いっぱい身体を動かそうということが大事だと思います。それが健康で安全な足感覚を身につけてくれる元にもなります」とお話しします。

靴教育の話ですが、履き方教育と選び方教育とに分けて伝えています。

靴指導の履き方の流れですが、まず悪い履き方を止めさせることが必要で、手を使わない履き方、足だけの脱ぎ方・履き方。正しい履き方を教えます。正しい方法の実技指導をします。

ポイントは、踵を踏まない・爪先トントンしない。爪先合わせすると、爪先の余裕がなくなり、踵が余るので浮いて不安定になります。今はベルト靴がほとんどなので手を使うことが重要。皆さんが見本としてしっかり片足を手伝ってあげてください。足にフィットする気持ち良さや足の感覚を磨いてあげていただきたいとお話しします。

履き方指導の目安

「足感覚」を研ぎ澄ます靴の履き方 吉村式エルゴメソッド(片側ベルト4ステップ法)



1歳からは正しい履き方を念頭に声をかけながら、2歳からは自分で履く動作が始まる頃なので、このころ正しい固定状態のフィット感を「足感覚」として教えることが大事だと考えています。小学校の下駄箱では立って履かなければいけないので、5歳児クラスになったら教えてあげて欲しいですね。時期としては片足でバランスがとれるようになったら立って履けると考えて良いでしょう。立った状態でも踵トントンをしっかり行って、ベルトを中腰でしっかり止められるようにしてあげてください。

子どもの足と靴をきちんと理解しているシュー

フィッターの皆様が指導者として履き方をしっかりと伝えていただきたいと思います。

まとめ

生徒さんが実際作った教材を見せていただいたり、視察のお話も聞けたり分かりやすくお話いただきました。また、子どもたちにとって非常に大切なことなのに、ちゃんと教えるべき大人でさえ必要十分な正しい知識を持っていないという現状を知ることができ、とても考えさせられる講座でした。

我々シューフィッターも、消費者に一番近い立場として足を守るようしっかり啓蒙していきましょう。

※スライドの患者さんの写真は、塩之谷整形外科副院長 塩之谷香先生から提供頂き、医事監修を受けています。

おまけ

補習講座後の懇親会。毎回、初対面の方々が集まり盛り上がり、皆様がぜひご参加ください！シューフィッターの横の繋がりを強くしていきましょう。

今回は吉村先生もご参加くださいました。



吉村 真由美 (よしむら まゆみ)

日本シューエデュケーション協会主宰

早稲田大学

人間総合研究センター 招聘研究員

<http://www.yoshimuramayumi.com/index.html>

JFW-IFF INTERNATIONAL FASHION FAIR 参加報告

日程：2016年4月26日（火）、27日（水）、28日（木）
会場：東京ビッグサイト 西展示棟3・4ホール
参加者：事務局長 木村克敏 研究員 原田繁

〈JFW-IFF 開催概要〉

織研新聞社主催で2000年に「日本ファッションビジネスが元気になる展示会」を掲げてスタート。現在は国内におけるファッションビジネス最大級の展示会となっている。今回の出展社数は約430社。3日間での来場者数は10,000人以上。

4月26日（火）～28日（木）の3日間、お台場の東京ビッグサイトで開催された織研新聞社主催「JFW-IFF（INTERNATIONAL FASHION FAIR）」に初めて出展し、来場者に足型計測を実施した。また27日（水）の10時30分から木村事務局長による「シューフィッターが提供しているのは健康と幸福」と題した講演を行いシューフィッターの職掌と靴選びにおけるシューフィッティングの重要性をPRした。

ブースでの足型計測に関心を持つ来場者は多く、講演も多数の聴講者が熱心に耳を傾けていた。

さらに来場者には小冊子「はだし気分で歩こう」を配布して靴選びの重要性を説明したが、全て無くなりファッション業界でも「シューフィッター」の関心の高さが伝わってきた。

今後も靴だけではないこのような展示会に幅広く出展していく必要があると感じた。



木村事務局長講演



FHA ブースの様子

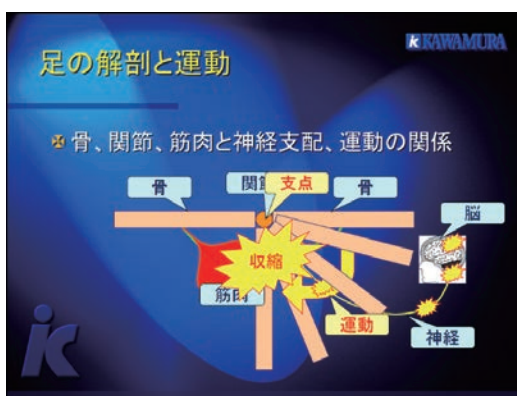


SFC 東日本支部 補習講座
義肢装具士から見たシューフィッティング

2015年2月26日（金）東京・蔵前の皮革年金会館にて「義肢装具士から見たシューフィッティング」の講座が開催されました。眞殿先生は川村義肢株式会社製造本部の主任技師で1級義肢装具技能士の資格をお持ちです。また、神戸医療福祉専門学校三田校で義肢装具士・靴型装具講師としてもご活躍されており、靴型装具を専門に手掛けている方です。そのため我々シューフィッターにとって関心の高い内容となり受講者からも大変好評でした。実際に使用したスライドを中心に講座の一部をご紹介します。

報告者 SFC 東日本支部 副支部長 吉田 友則

講師 眞殿 浩之（川村義肢株式会社 製造本部 製造1部 製靴課）



筋肉は関節をまたがって骨に付着している。関節が支点となり、筋肉が収縮することが運動で、脳の命令により動く。脳からの命令を伝えるのが神経の役割。



脚長差があるのは骨盤が傾く、傾くということは骨盤から出ている脊椎が斜めに立ち上がるということ。斜めだと気持ち悪いので真直ぐに起こそうとする。胸椎には肋骨があり横には曲がらないので腰椎を使って起こす。しかも下の方の腰椎を曲げてカバーしようとするために腰痛の原因となる。骨盤の補正が必要。

距腿関節 (Talocrural joint)

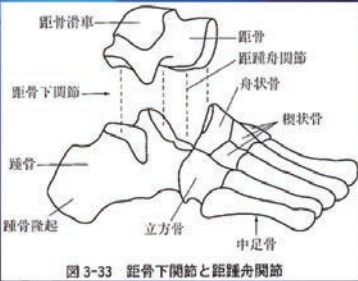
脛骨の下関節面と内果、腓骨の外果、距骨上面の滑車からなる関節・ラセン関節



- ・底屈・背屈の運動軸で、脛骨内果下端と腓骨外果の最突出部を結んだ線。
- ・完全な水平運動軸とはならず、膝軸に対しては外方へ傾き、脛骨軸に対しては内側が高くなっている。そのため背屈時には足底はやや外側に向き、底屈時には内側に向く。

距腿関節の動きが外がえし、内がえし。
 関節の名前は意外に簡単で、近位側と遠位側のそれぞれの頭文字をとって名前がつけられている。

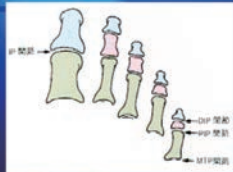
距骨下関節 subtalar j.



- ※ 距骨と踵骨によって構成される関節
- ※ 距骨体の下面(後踵骨関節面)と踵骨上面(後距骨関節面)との間にできる。

距骨下関節は外反、内反の動きを行う。

趾(足の指)の骨 phalanges



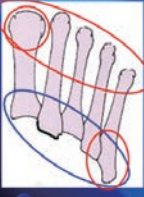
1. 基節骨 proximal phalanx
2. 中節骨 middle phalanx
3. 末節骨 distal phalanx

からなる。

- ※ 手の指骨と同様の形状をもつが、はるかに短い。
- ※ 母趾は2個、その他の趾は3個の骨からなる。

趾節骨…ファランギアル (Phalanges) ボーン

中足骨 metatarsal(s)



- ・内側から、1～5中足骨となる。
- ・各骨は近位端の底 base、中央の体 body or shaft、遠位端の頭 headに分けられる。
- ・第1中足骨頭下面には、1対の種子骨がある。
- ・第5中足骨底は肥厚し、外側に突出し、その外側に第5中足骨粗面がある。

中足骨…メタルザ (Metatarsal) ボーン

MP (中足趾節) 関節…メ (M) タタルザルファ (P) ランギアルジョイント (関節)

PIP (近位趾節) 関節…プ (P) ロキシマル (近位) イ (I) ンターファ (P) ランギアルジョイント (関節)

DIP (遠位趾節) 関節…ディ (D) スタール (遠位) イ (I) ンターファ (P) ランギアルジョイント (関節)

足のアーチ



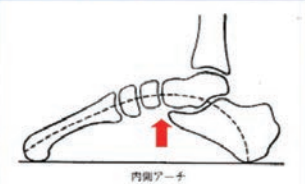
- ※ 上からの荷重を分散することができ、体重をうまく支持することができる。
- ※ 足の衝撃を吸収するためのクッションになる。
- ※ 安定して立つことができる。

●分類
 ・縦アーチ … 内側縦アーチ・外側縦アーチ
 ・横アーチ

母趾球と小趾球と踵の3点で支えることで安定して立つことができる。アーチの低下により不安定になる。

内側縦アーチ (Medial longitudinal arch)

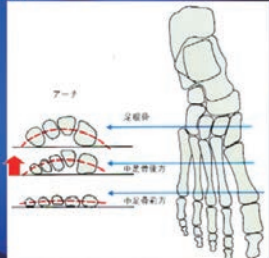
- ※ 踵骨-距骨-舟状骨-内側楔状骨-第一中足骨
- ※ 頂点=舟状骨近位(載距突起遠位)



一番アーチが高いのが舟状骨近位か載距突起遠位。

横アーチ (Transverse arch)

- ※ 中足骨、楔状骨-立方骨
- ※ 頂点=第2中足骨

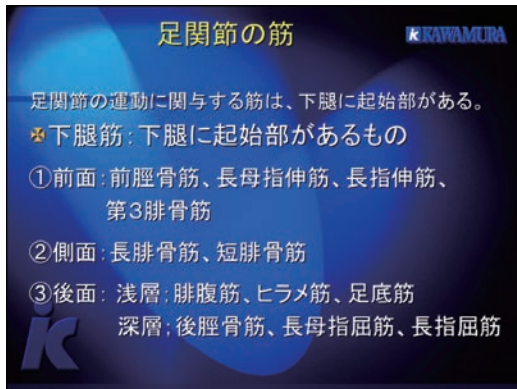


第二・三・四中足骨はアーチ状に並んでいるが、骨の構造上、骨頭は下側の方が狭くなっている。実際の骨頭は模型のそれより更に下側が尖っている。

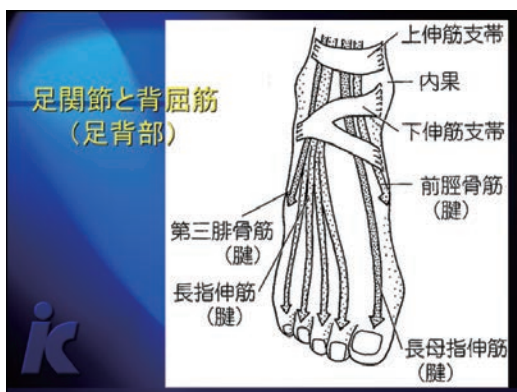
川村義肢装具には現在は手に入らない生骨があるが本当に尖っている。

下側の尖っている第二・三・四中足骨の骨頭が開張足になればその部分が胼胝や魚の目となる。

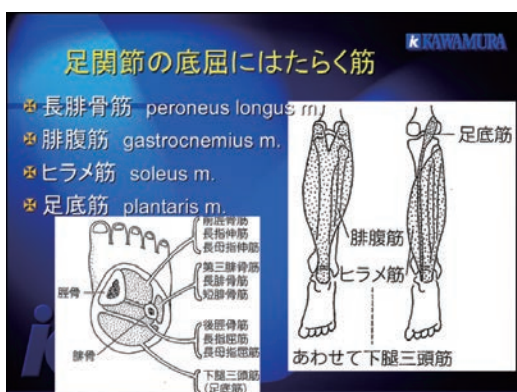
そのためメタタルザアーチ（ペロッティー）は重要。



筋肉がどこから始まって、どこで終わっているのか。（起始と停止）そしてその筋肉が関節の左右どちらを通過しているのかを知る事が大切。



趾を伸ばすのは足背部の筋肉。縮むことで趾が伸びる。

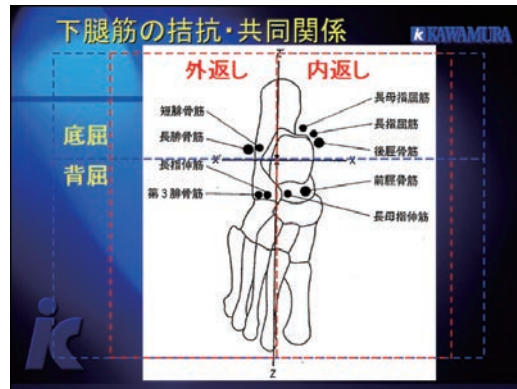


アキレス腱は踵骨に付いている。またそれに繋がった腓腹筋が膝関節を通り超え大腿骨に付いており二つの関節をまたがっている。

背屈と底屈は膝を伸ばしている時と曲げてい

る時では動きやすさが違う。例えば、膝を曲げていると背屈しやすい。膝を立てた状態だと腓腹筋、アキレス腱が緊張している状態なので背屈しづらい。

フィッティングにはこの様な状態を知る事も大切。

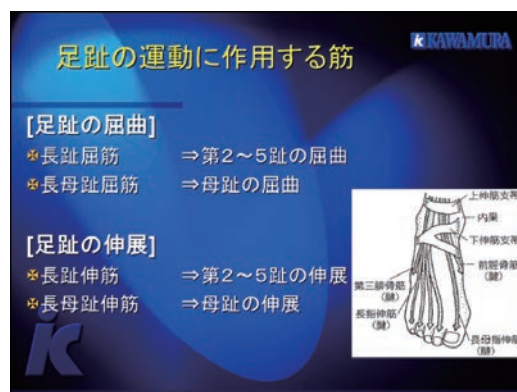


この座標図は筋肉をそれぞれ縮めた図であり、底屈動作（外返し・内返し）と背屈動作（外返し・内返し）を分かりやすく表示してある。

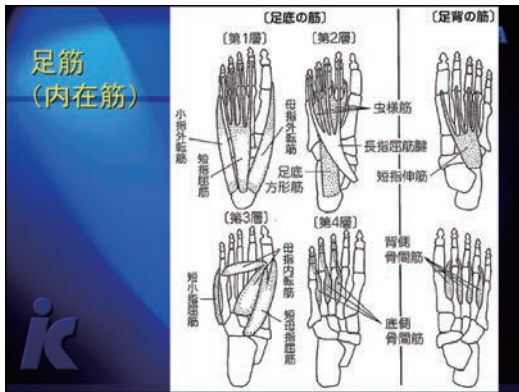
筋肉が縮むから骨からずれるのではと聞かれるが、足関節には肢体と言われる筋肉の通りを支える機能があり、そこからは動かないようになっていて効率よく運動を伝えられる。

アキレス腱からの下腿三頭筋（主動筋）が収縮して底屈する時には後脛骨筋と長趾屈筋（補助筋）などが手助けをしている。

主動筋と拮抗筋が連動する事によって動作が安定する。片方がアクセルでもう片方がブレーキである。



ハンマートーは伸展側の筋肉が麻痺し屈曲側の筋肉が勝ってしまう。片方の筋肉が極端に強いと主動拮抗の関係が維持できず変形が起ってしまう。



内側縦アーチ、外側縦アーチは上から引っ張られているので比較的変形しにくい。但し、内が麻痺し外が強いとバランスが崩れ、外反偏平、その逆は内反足となりうる。

メタタールザアーチ（横アーチ）は骨間筋という小さな筋が骨と骨を引き寄せることでアーチを形成しているので変形しやすい。



タオルギャザーや足指ジャンケン、小さい骨間筋のトレーニングとして外反母趾や開張足に良いと医師は言う。



写真は制作した装具靴の一部。お客様にとって靴型装具も靴屋さんで購入されるファッションシューズも一緒である。ゆえに装具だとしてもできる限りお客様のご要望に合ったものを頑張って制作している。

Q&A

講義後の
質疑応答も
活発に行われ
ました

Q 装具を片足しか作ってくれずに靴に入れたら脚長差が生じた。また、踵だけに入れたが動いてしまって困るとお客様に言われた。そういうものを高価な金額で作ったそうですが納得されず、1,000円程度の市販の物を試してもらおうと納得してお使いいただける事が多々ある。本当に高額なものが良いのであろうか？

A 靴専門の技師装具士は本当に少人数です。なぜなら儲からないからです。一番儲かるのが腰のコルセットです。ちなみに関東に大きな義肢装具会社は一つもありません。小さな装具屋が何百とあり、義肢装具協会に登録している会社が全国で700社ほどあります。

日本で弊社が一番大きくおよそ600名の社員がいます。続いて100名規模の会社は何社かあって、関西のその大きな会社が動くと言業界全体も動きません。関東では小さな会社がそれぞれの考え方で経営されていますのでまとまりが悪いのが現状です。片足しか制作しなかった件ですが、義肢装具士だけではなく医師との関係もあります。保険適用の足底装具は医師が処方した方にしか作れません。外反偏平足や外反母趾など医師が診断、処方して初めて装具が作れます。自費であればもう片方も作れます。また、脚長差ですが、もう片方の調整をサービスで行う装具会社もあります。弊社でもそうしています。

医師は装具についてほとんどわからない方が多いです。足について詳しい装具士は医師との話し合いにより両足の調整が必要なことを説明し、両足の診断を下してもらうようにしています。

また、装具代の保険対応ですが、いったん総額を患者に負担してもらい、後で健康保険に申請して戻す制度です。しかし最近、制作した後で「このケースでは保険の負担が出来ない」と断られてしまうことが増えており、申請してみないと分からないので装具会社としてはもう片足をお勧めしにくいのが現状です。装具の価格は厚生労働省で決められており、保険適用だと患者が3割負担です。適用されないもう片足分を全額本人負担で患者に勧める装具会社は少ないです。

Q

接客をしている中で、これから足底板を作るといってお客様がご来店されますが、メーカーを指定する方もいれば、「私にはどのような靴が良いのですか?」と言われる方もいます。足底板を作る時は靴を先に決めてそれに合わせて作るのが良いのでしょうか?

A

先に靴を選んでいただいてそれに合わせて我々が装具を誂える方がやりやすいです。最初に足底板を作ってしまうとどんな靴に入るのか分からないから、大き目に作ってしまいます。そしてそれを靴屋に持って行っても持ち込まれた靴屋は装具に手を加える事はできず、その装具がそのまま入る靴を探さなければなりません。装具士はカット加工ぐらい靴屋でやってくれるだろうと思っていますが、靴屋は加工方法が分からないのでカットできないと思います。靴を選んでいただいた後に足と靴を見て装具の制作をするのが理想です。

Q

足底板を入れる靴を決める時にどのような点に気をつけておけば義肢装具士が作りやすいのか?

A

どういう靴を選ぶべきなのかということですが、足底装具というのはかなり厚みがあると思ってください。元々入っている中敷きが抜けるタイプで踵のカウンターがしっかりしているものを選んでください。フィッティングに関して言えば元々の中敷きが入っている状態で足にフィットしていることが大切です。これがしっかりしていればほぼOKです。このように我々は装具を作るときに元々入っている中敷きの厚さを見て考慮します。

Q

ハンマートーやアーチの低下によって伸筋・屈筋群のバランスが崩れて、片方が強く、もう片方が弱くなり変形につながるということですが、お医者さんに行くほどではないけれど、少し悪くなっている箇所を何とかできないかと聞かれます。お客様にどの様にアドバイスすればよいのでしょうか?

A

義肢装具士でも難しいです。「このまま放置したらどうなるだろう」と感じたご経験が皆様もあると思います。

「筋肉を鍛えることは変形防止にとって良い」ということを前提に話されると良いです。例えば外反母趾の方にはフットプリントをとって、骨間筋

が弱っていて開張足になりはじめているので、この骨間筋の運動をした方がよろしいのでは?という感じで運動方法をご提案してみてください。外反母趾、偏平足、開張足、強剛母趾は全て病名です。したがって我々、装具士もシューフィッターもお客様に直接この病名を話してはいけません。病名を告知出来るのはお医者さんだけです。説明の時は「内側のアーチが落ちこんでいますね?」等、状態を話します。

Q

お医者さんに脚長差が1.2cmあると言われてご来店されたケースがありましたが、私たちは基本的にそれには対応出来ないで、病院に行くことをお勧めしますが、脚長差は何cmくらいから病院に行ったらよいのでしょうか?

A

義肢装具士も靴屋も外から見て骨盤がどの程度傾いているのか、それに対して調整するという対応です。お医者さんがレントゲンを見て脚長差が何cmあるのか判断した場合はその時点で義肢装具士に指示があります。そうではなく骨盤が少し傾いているのが気になるくらいなので靴屋さんに立ち寄ったということであれば対応して良いと思います。私はおよそ2cmくらいまでは皆さんが調整しても良いかと思います。それ以上ですとカバーできませんのでお医者さんに相談された方が良いでしょう。健康のためにある程度の範囲で骨盤の位置を矯正することは個人的には良いことだと思います。

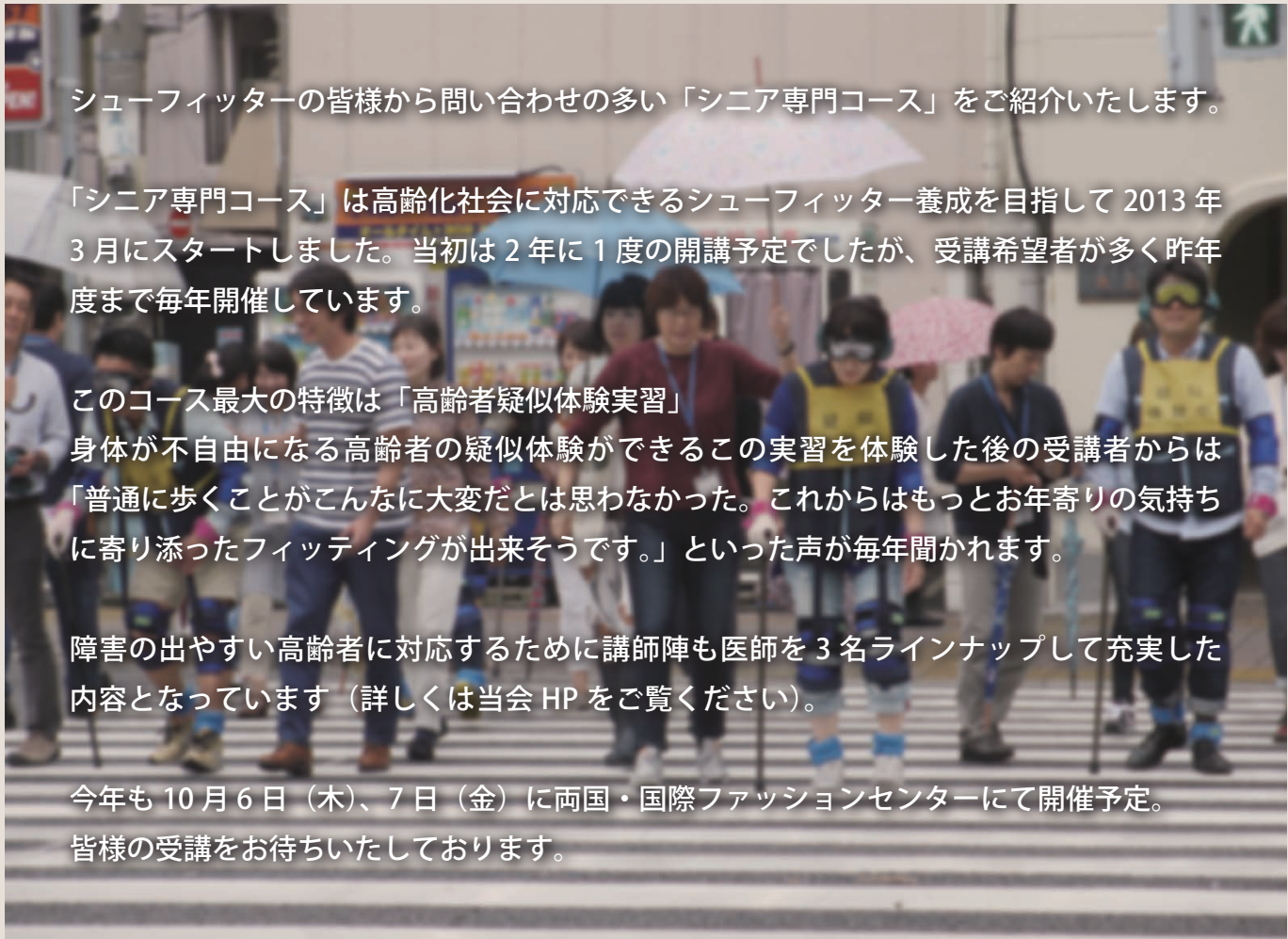
まとめ

眞殿先生の丁寧で分かりやすい説明がとても印象的でした。また、講義後の質疑応答も活発に行われ受講者の関心の高さが伝わってきました。足と靴という奥深い問題の数々を義肢装具士とシューフィッターが一緒になって考える講義は受講者からも大好評でした。次回は、ぜひ今回参加できなかった皆様の受講をお待ち致しております。



眞殿 浩之 (まどのひろゆき)

川村義肢株式会社
製造本部 製造1部 製靴課 主任技師
義肢装具士 1級義肢装具技能士



シューフィッターの皆様から問い合わせの多い「シニア専門コース」をご紹介します。

「シニア専門コース」は高齢化社会に対応できるシューフィッター養成を目指して2013年3月にスタートしました。当初は2年に1度の開講予定でしたが、受講希望者が多く昨年度まで毎年開催しています。

このコース最大の特徴は「高齢者疑似体験実習」。身体が不自由になる高齢者の疑似体験ができるこの実習を体験した後の受講者からは「普通に歩くことがこんなに大変だとは思わなかった。これからはもっとお年寄りの気持ちに寄り添ったフィッシングが出来そうです。」といった声が毎年聞かれます。

障害の出やすい高齢者に対応するために講師陣も医師を3名ラインナップして充実した内容となっています（詳しくは当会HPをご覧ください）。

今年も10月6日（木）、7日（金）に両国・国際ファッションセンターにて開催予定。皆様の受講をお待ちいたしております。

シューフィッター養成講座 シニア専門コース紹介



「老年学総論」
講師：鈴木 隆雄



「高齢者に多い整形外科疾患と歩行障害」
講師：豊岡 毅



「高齢者に多い内科疾患と足病変リスク」
講師：金森 晃

充 実 の 講 師 陣



「靴の知識」
講師：佐藤 重基



「シューフィッシング」
講師：小林 徹司



「高齢者疑似体験実習」
講師：楠本 彩乃



第 19 回定時総会概要報告

平成 28 年 5 月 24 日（火）午後 2 時～ 4 時、浅草文化観光センター 5 階「大会議室」において第 19 回定時総会を開催。

印南淳代表理事が議長、神部俊平専務理事が詳細報告をつとめ議案審議が行われた。

【定足数の確認】

会員総数 42 社 出席総数 34 社（出席 19 社、委任状 15 社）

【来賓挨拶】

経済産業省 製造産業局 紙業服飾品課 企画官 橋本 智之 様よりご挨拶。

一般社団法人 日本皮革産業連合会 専務理事 朝稲 秀男 様よりご挨拶。

【議案審議】

第 1 号議案

平成 27 年度事業報告

I 概要 II 会員の状況 III 各部会事業報告

・シューフィッター部会、シューフィッタークラブ部会、情報交流部会、新規事業部会

（採決 全員承認）

第 2 号議案

平成 27 年度決算報告

同、監査報告

（監事）富田 常治 長谷川 雅洋

（採決 全員承認）

第 3 号議案

平成 28 年度事業計画（案）

I 概要 II 基本方針 III 事業計画

・シューフィッター部会、シューフィッタークラブ部会、情報交流部会、新規事業部会

（採決 全員承認）

第 4 号議案

平成 28 年度収支予算（案）

専務理事 議案書に基づき詳細報告

（採決 全員承認）

【報告事項】

- 1、シバタ工業株式会社が FHA 会員に入会した。
- 2、東京皮革産業厚生年金基金事業主説明会が延期された。
- 3、東日本大震災に対し日本赤十字社を通して義援金を送付する。

【役員改選の件】

退任 副会長 佐藤 重基 理 事 植田 宗紀

就任 副会長 楠本 彩乃 副会長 佐宗 秀行 理 事 高橋 伸吾 理 事 渡辺 祐子

平成 28 年度アクションプラン

事業名	部会別	行動計画 (内 容)			行動スケジュール			
					4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
人材養成事業	SF 部会	シューフィッター 養成講座	プライマリー コース 養成人員 432 名	東京	第 114 回 4 月 13～15 日	第 116 回 7 月 27～29 日	第 117 回 10 月 26～28 日	第 118 回 1 月 25～27 日
				関西	第 115 回 (神戸) 6 月 14～16 日			第 119 回 (大阪) 2 月 14～16 日
		パッチェラー コース 養成人員 15 名	東京	7 月開講 (1 年間・スクーリング 9 日間)				
					7 月 13～15 日	11 月 9～11 日	3 月 15～17 日	
			東京			10 月 6、7 日		
幼児子ども 専門コース 養成人員 25 名	東京			12 月 7、8 日				
新規事業 部会		マスター開設分科会			マスターコース平成 29 年度開講に向けて原案作成			
SFC 事業	SFC 部会	補習講座 (講演会、実技研修)	東日本支部	4 回	6 月東京	9 月東京	12 月東京	2 月東京
			西日本支部	4 回	6 月大阪	8 月神戸	10 月大阪	2 月大阪
		海外研修					11 月 21～26 日 イタリア	
		日本靴医学会学術集会参加				9 月 23、24 日 メルパルク 京都		
	情報交流 部会	ホームページ更新			更新、フォーム追加作成			
情報誌「トレデュニオン」発行		3 回		7 月下旬 (52 号)	11 月下旬 (53 号)	3 月下旬 (54 号)		
消費者啓発事業 足と靴と健康講座			消費者向け講演会					
FHA 会員向け講演会				講演会		講演会		
JFW-IFF (インターナショナルファッションフェア) 出展			4 月 26～28 日 東京ビッグ サイト					

●第15回バチェラーコース認定者一覧 (2016年5月13日認定)



氏名	会社名
山口久美子	チヨダシュープラザ西葛西店
松井知恵	近鉄百貨店あべのハルカス近鉄本店
鍋島久美子	AKAISHI
富野 紀子	shoes studio FootQuest
田島 智司	リーガルコーポレーション

氏名	会社名
藤川みゆき	SHOES STAGE
西濱有美	カワノ
伏見 幸大	お茶の水義肢装具
川野 恭延	高島屋
片山佳世	プラダジャパン

氏名	会社名
林 達夫	アキレス 本社
澤 茜衣	そごう・西武 そごう神戸店
吉川 綾子	ピナ
河野 賢	そごう・西武 そごう横浜店

(受講者の声) 受講している約1年の間、自分の職業が社会に対してどんな使命を持っているかという事に真剣に向き合うことが出来ました。できる限りの経験と知識と思いやりを持って、シューフィッターとして活躍できるよう、これをスタートとして勉強し続けたいと思います。こんな風に思えるのは、講義を通して知り合うことのできた同期の皆さんや、前向きで真摯な先輩方の存在があったからです。同期の皆さんとは、課題や試験を一緒にやり切った達成感をシェアできましたし、先輩方からは「これから共に学び続けましょう」とアドバイスをいただきました。すべてが貴重な経験でした。

(株)チヨダ シュープラザ西葛西店 山口久美子

●第5回シニア専門コース申込み受付中

2016年10月6日(木)、7日(金) 2日間コース 会場:両国・国際ファッションセンター 受講料:66,000円(税抜)

●第8回幼児子ども専門コース申込み受付中

2016年12月7日(水)、8日(木) 2日間コース 会場:両国・国際ファッションセンター 受講料:66,000円(税抜)

●第17回バチェラー(上級)コース申込み受付中

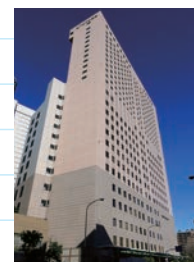
2017年7月~2018年3月 スクーリング3日間
会場:東京×3回(7、11、3月) 受講料:260,000円(税抜)

●お知らせ

長きに渡り養成講座やSFC東日本支部の補習講座の会場として使用してきた、東京蔵前の東京皮革産業厚生年金基金会館(皮革年金会館)が2016年3月で閉館しました。これからは、両国の国際ファッションセンター(KFC)をメイン会場にさらに快適な講座をご提供できるように頑張っていきます。



皮革年金会館



国際ファッションセンター

※足や靴に関する講演会、計測会等のシューフィッターとしての活動は事務局までご連絡ください。当会HP「シューフィッター活動報告」に掲載いたします。
※勤務先や自宅住所等の変更が生じた時は必ず事務局までご連絡ください。連絡が無い場合はトレデュニオンや補習講座、資格更新の案内等をお届けできなくなる事があります。

ホームページ FHA/SFC 会員専用パスワード: kmhs7646

表紙デザイン: 株式会社ジャルフック 池田 正晴

○…トレデュニオン…○

“トレデュニオン”は、フランス語です。英語では Hyphen (ハイフン) にあたります。FHA 事業理念をもとに FHA 会員、SF、SFC 会員の相互を密接に結ぶ情報誌という意味で命名しました。

VOL. 52 (通算 87 号) 2016 年 8 月 1 日 発行
〈編集・発行〉一般社団法人 足と靴と健康協議会
〒111-0032 東京都台東区浅草 7-1-9
Tel. (03) 3874-7646 Fax. (03) 3875-0880
Email fha@tokyo.email.ne.jp URL http://www.fha.gr.jp/
禁・転載複製